

研究者として走り続ける

応用化学科H23年卒 上成 孝浩

1. 山口大学工学部での生活

学部4年から大学院修士課程まで鬼村研究室に所属し、高分子合成に関する研究に注力しました。鬼村研究室では、有機合成、高分子合成の面白さ、難しさに魅了され、日々研究に没頭しました。しかしながら、思うようにデータが出ないことも多々ありました。先生方、研究室の皆様を支えられ、親身にご指導いただいたおかげで、何とか卒論、修論を完成させることができました。鬼村研究室での3年間の研究を通して、研究者としての基盤を構築することができたと思っています。

学業以外では、柔道部に所属し、卒業直前まで部員とともに汗を流しました。山大柔道部において、投げられ、倒された回数は、歴代トップクラスに位置していると自負しております。どんなに投げられても折れない不屈の精神を養いました。

2. 社会人になって 仕事

大学院修了後、(株)ナード研究所を経て、三井化学(株)にて紙加工用塗料を開発しています。顧客要求性能が非常に高く、かつスケジュールがタイトであるため、日々緊張感を持って業務に取り組んでいます。また、自社製品、自社技術を守るための特許出願、及び製品拡販に向けた法対応等、開発以外の業務にも携わることができ、やりがいを感じています。

限られた時間の中で、最大の成果を得られるよう、PDCAサイクルを回し、確度の高い実験を実施することで、顧客要求性能を満た

す製品を開発していきたいと思っています。
プライベート

一昨年結婚し、一児のパパです。仕事が休みの土日は、簡単な料理（チャーハン、パスタ、うどん等）を作って、少しでも妻の負担を軽減できるよう心がけています。また、9ヶ月になる愛娘を連れ、公園でのんびり過ごす時間は、最高に幸せなひとときです。仕事に全力で取り組めるのも、家族のおかげであることを肝に銘じ、仕事とプライベートが良循環するよう心がけたいと思っています。

3. 在学生の皆様に向けて

社会人になって困らないために、学生の中に予め身につけておくべきことがたくさんあります。中でも、論理的思考の構築は文系、理系、業種、職種を問わず、必須であると考えます。理系の皆様は、是非、勉学、研究室での御自身のテーマに全力で向き合うことで、上記資質を磨いていただければと思います。



千葉泉自然公園にて